

# 欧州印刷業界 NEWS



- powered by drupa -

## 2014年1号（春）

春暖の候、皆さまにおかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。東京がおよそ40年ぶりの大雪に見舞われるなど、寒さが際立った今シーズンの冬もようやく終わり、桜が満開を迎えるよい時季となりました。ご存知のかたも多いかと思いますが、本年夏ダイヤから、待望の[東京（成田）線直行便が就航](#)し、デュッセルドルフがより身近に、そして便利になります。さて、ご案内が遅くなりましたが、欧州印刷業界 NEWS 2014年・春号では、以下のテーマを取り上げたいと思います。

- トレンド …… Print 2030（業界の将来ビジョン）、初の3D印刷店舗
- 業界・企業ニュース …… 2014年経済展望、賃上げ交渉（ドイツ版春闘）
- メッセ情報 …… 新コンセプト3D fab+print、包装印刷 @ interpack 2014

では、ぜひ最後までご覧ください。

### 第1部：トレンド

#### トレンド1：業界が目指す将来とは？ - Print 2030

ドイツ機械工業連盟（VDMA）印刷・紙加工技術工業会は、会員企業からおおよそ50名の意思決定者の協力を得て、「Print 2030（印刷業界の未来を考える）」という戦略ワークショップを主催しています。これは、業界の将来ビジョンをどう描くのか、現況そしてそこから推測される今後を基に導き出し、現状を打開していこうとするものです。

スマートフォン、タブレット、電子書籍などのデジタルメディアが急速にその勢力を拡大し、伴って紙印刷が減退しているというような大きな変革期では、中長期的な視点にたった戦略構築が必要不可欠です。世界トップクラスの8,000億ユーロ（116兆円相当）を売り上げるドイツメーカーも、まさに先手を打つべく、現状を分析し、来るトレンドを読み解こうとしています。

「Print 2030」では、業界の今後を決定づけるものとして、『プリンテッドエレクトロニクス』、『3D印刷』、『高品質印刷』が挙げられています。これらは、細分化する顧客のニーズに柔軟に対応でき、そして業界が今持ち得ているノウハウを最大限かつ効果的に活用で

きるうえ、新たな市場を開拓できる可能性をもたらしてくれます。

印刷・紙加工技術がデジタルの世界へ近づいて行かざるを得ない今、ワークショップで生み出されたプロジェクトに大きな期待と関心が寄せられています。

出典：2013年12月18日付 drupa サイト

### トレンド2：ドイツ国内初の『3D印刷店舗』

昨年11月末、ドイツで初となる3D印刷店舗『[botspot](#)（残念ながらドイツ語のみです）』が、ベルリンにオープンしました。日本国内では、カフェと併設されている形態なども見られますが、こちらでは、3D印刷機械に製作物を出力させるのはもちろん、専門家の助言のもと3Dデザインやコンセプトを作り上げられるほか、3Dスキャンも使用できます。また、800ユーロ（116,000円相当）から3D印刷機械自体を販売しており、レンタルサービスも提供しています。

botspot社によれば、ヒト型の複製需要が伸びを見せているとのこと。3D印刷の入り口として興味がそそられる工程、と推察しますが、そこは日本と同じくモノづくりに長けるドイツですから、開発・製造過程を劇的に変える可能性を秘める3D印刷機械が普及するにつれ、その用途と需要が格段に伸びるものと思われます。



3D印刷の今後については、欧州印刷 NEWS 前号にて取り上げた、コンサルティング会社 Roland Berger の考察も、あわせてご覧いただければと思います。ダウンロード（英語）は [こちら](#)から。

出典（図表含む）：botspot社、2013年11月27日付 drupa サイト

## 第2部：産業・企業ニュース

### ドイツの景気見通し

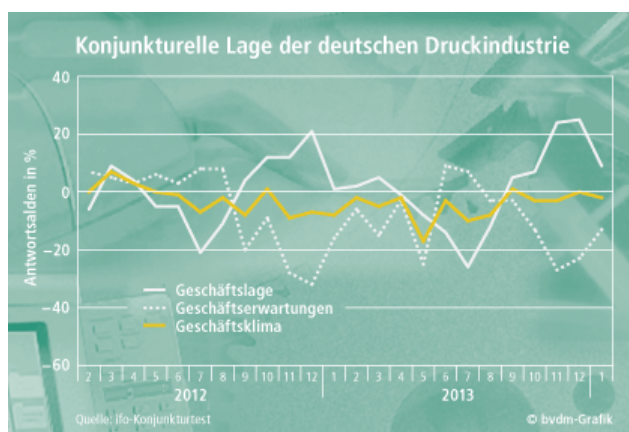
新年を前に、ドイツ6大経済研究所のひとつifo経済研究所（在ミュンヘン）は、2014年のドイツ経済成長は+1.9%と、2013年（+0.4%）に比べ5倍近くの伸びを見せる、との予測を発表しました。これは、EU圏内最高の数字です。同じように高い水準の成長を見込むのは、ドイツ連邦銀行です（+1.7%）。これを実現するカギとなるのは、堅調な国内需要と好調な貿易です。

同研究所は加えて、この経済成長のおかげでおよそ23万人が正社員としての職を得、失業率も0.1ポイントダウンし6.8%となるだろう、としています。

出典：2013年12月17日付 *Handelsblatt* 誌

### 印刷業界は…

ドイツ印刷・メディア産業連盟（BVDM）が定期的に発信する景況感指標「BVDM-Konjunkturtelegramm」によると、2014年1月の印刷業界の現況に対する評価が9ポイントと、前月（25ポイント）に比べ大幅なダウンを見せています。同様の現象が前年同月にも見られていることから、欧州で書き入れ時であるクリスマスシーズンが終わった直後、ということが評価に影響を与えていると考えられますが、製造業全体では18ポイントと2倍になっており、印刷業界の低評価が気になるところです。



この指標では、このほかに2点発表されています。それは、経済環境とこの先の見通しについてです。取り巻く経済環境に対してはマイナス2ポイントと、前月（2013年12月）からわずかな下落にとどまりましたが、先3ヶ月の見通しではマイナス13ポイントを記録しました。先行きが明るいと感じた企業も、前月の12%から7%へと減っています。

出典（図表含む）：BVDM プレスリリース、2014年2月3日付 *print.de* サイト

### 業界賃上げ交渉

ドイツ版『春闘』とも言える賃上げ交渉が、2014年1月16日にベルリンでスタートしたものの、重ねられた会議は毎回もの別れに終わり、未だ決着がついていません。サービス業労働組合連合（ver.di）が掲げた要求は『給料・賃金の5.5%増』です。理由として、ドイツ全土で食料・住居・交通などの費用が上昇していることを挙げていますが、企業側は、売上がこの6年で9.2%減少していることから、応じることができない、としています。他

の業種が持ち直しつつある一方、印刷業界の改善は鈍く、企業はその構造問題に真剣に取り組んでいます。

このような企業がおかれる環境と、まさに現在進行形の挑戦に対し、ver.di が誤った判断をしているのでは、と危惧するのは、ドイツ印刷・メディア産業連盟（BVDM）です。BVDM は、将来も変わらず可能性を秘めた業界であり続けられるように、交渉が進んでくれることを期待しています。

賃上げ交渉はすなわち、雇用を含めた会社の将来について話し合うことでもあります。この決着がどのような形で収まるのか、推移を見守りたいと思います。

出典：BVDM プレスリリース、2014 年 1 月 16 日・17 日・2 月 12 日付 print.de サイト

### 第 3 部：メッセ情報

#### 新概念「3D fab+print」

革新的な製品・技術は、業界大手が発信する場合がありますが、それよりむしろ小規模新興企業や研究者が主導するケースも多く見られます。近年大注目をあびる『3D 印刷技術・機械』もそのひとつと言えるでしょう。そこで、メッセ・デュッセルドルフとドイツ機械工業連盟（VDMA）はこのたび、革新的な研究・製品・技術が集結する「3D fab+print」コンセプトを立ち上げました。次回 drupa 2016 ではもちろんのこと、メッセ・デュッセルドルフが主催する関連業界メッセ [COMPAMED](#)（医療機器技術・部品 / 2014 年 11 月）、[GIFA・METEC・THERMPROCESS・NEWCAST](#)（鋳造・冶金・金属製造・工業炉 / 2015 年 6 月）でも取り上げられます。

#### 注目のインドネシアへ – INDOPRINT 2014

前回開催からグループ企業メッセ・デュッセルドルフ・アジア（MDA）が主催に加わった『[INDOPRINT](#)』が、本年 9 月にインドネシアの首都ジャカルタで開催されます。関連業界メッセ『[INDOPLAS](#)（プラスチック）』、『[INDOPACK](#)（包装技術）』の同時開催が決定しており、相乗効果も期待されています。世界が注目する ASEAN 最大の市場を有するインドネシアへの参入、あるいはビジネス拡充に、INDOPRINT 2014 への出展をぜひご検討ください。

#### 包装印刷 @ interpack 2014

およそ 100 社もの drupa 2012 出展者が、本年 5 月 8 日から独・デュッセルドルフで開催される業界最高峰の専門メッセ『[interpack 2014 – 国際包装産業展](#)』へ出展参加します。会期

中、drupa 2016 を紹介する [ブース「EN / B04」](#)を設置し、最新情報を発信するほか、公式に drupa 2016 出展募集をスタートさせます。包装の世界を一望できる interpack 2014 をご



視察の折には、ぜひお立ち寄りください。

なお、interpack 2014 前売入場券を弊社にて販売しております。詳しくは[こちら](#)をご覧ください。

欧州印刷業界 NEWS2014 年 1 号は、いかがだったでしょうか？ご意見やご要望をお聞かせいただければ幸いです。

【発行】(株)メッセ・デュッセルドルフ・ジャパン

【編集 担当】メルケ・橋木【メッセ担当】橋木

<http://www.messe-dus.co.jp> ・ <http://drupa.messe-dus.co.jp>



本ニュースレターの掲載情報は発行日現在のものであり、予告なく変更される場合がございます。あらかじめご了承ください。